



2013年4月15日 発行

2013年春号

<第22号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/下野英世 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 works-union@y3.dion.ne.jp http://www.v-aid.org/union/

短期について

4ばく5日の短期はたいへんです。4ばく5日の短期より毎日五日間は家の方が良かったです。どっちみち4ばく5日の短期はたいへんやからいえのほうがよくったんです。大正のおとまりもたいへんです。大正のパークハイツへ帰るより額田の東大阪市へ帰る方がよかったです。4ばく5日のおとまりは、もとからいつもたいへんやからお家へかえるほうがよかったです。いつも1月から12月まで4ばく5日の短期のお泊まりの方へ行ってるからおばあちゃん、いつも淋しかったです。淋しかったのはおばあちゃんだけやったんです。訓練やらしゃーないのはたいへんです。何回も行って慣れてます。最初は慣れなかつたんです。クリスマス会とか誕生日会のとちゅうでたのしかつた事があつたんです。短期のお泊まりに行つた時は、初めての時よりずっと慣れたんです。

松本晃治

生活介護事業所 匠 みんなで作る

「匠」は平成二十四年七月一日より、就労継続支援B型事業所から生活介護事業所へ移行し、場所も天王寺区から生野区に移り、新たにスタートしています。現在男性十一名、女性六名の十七名が在籍しており、利用者の平均年齢はユニオンの中で最も高い五十二歳になります。「匠」での仕事や創作活動、体操などの活動を通して利用者さんに色々な変化が出ています。

「匠」は桃谷駅から徒歩五分ほどの生野区勝山の幼稚園や小学校などが並ぶ場所にあります。朝一番「ゴミー」と威勢よく笑顔でゴミ捨てをする利用者さんの姿を見ながら「匠」の一日はスタートします。

「匠」は、作業スペースと活動スペースが分けられており過ごしやすい環境になっています。以前に比べて建物自体が広くなり、スペースの狭さからくる利用者さんのイライラや、トラブルも無くなりました。ワークス匠の頃より利用者さんの人数も増え、開所

前には少人数のグループを作り別々のサービスを提供した方がいいのではないかと職員間で考えていました。

しかしいざスタートしてみると、ほとんどの利用者さんがみんなと一緒に過ごすことを望み、基本的には集団で活動しながらニーズに合わせて個別に支援を行っています。「みんなと一緒にやりたい。」と言う利用者さんを見て、長年一緒に過ごしてきた仲間意識を感じた瞬間でした。

「匠」での日中の過ごし方ですが、今まで通り作業を毎日提供するとともに、生きがいや楽しみ、利用者

の心身の活性化を図った色々な活動を取り入れていきます。作業中は、利用者さんが主体になり、声をかけ助け合いながら取り組んでいます。作業が業者から入ってくる前には「今日入ってくるベロスさんの作業は何か？楽しみやねん。」と待ち望んでいる声が聞かれ、仕事に対しての意欲を持っていての方が多く、仕事と活動の両面で支援しています。

活動の一つに創作活動があります。絵画や折り紙、みんなの誕生日をお祝いするときを使う特製のくす玉作り等を行っています。

活動の中で利用者さんの作品のレベルが上がってきたので、先日大阪市主催のコンクールに応募しました。入選には至りませんでした。が、一次審査を通過する人が出ており、みなさんの可能性を感じさせられました。

活動にはプロの講師に来ていただいたり行っているものもあります。ファシリテ

ーションボールというやわらかい減圧ボールを使った体操もその一つです。ボールを使い、振動等の刺激を通して、心身のリラクゼーション効果があります。

「仕事がない時の暇つぶし」としか創作活動に対して感じなかったようですが、長い就労経験がある方なので仕方がない事かもしれませんが。しかし色々な創作活動をみんなで行うことで、活動の楽しみに気づき、今では活動の時間になると、今日は何をしようかと楽しみにしながら率先して準備を行っています。

仕事はもちろん利用者さんにとって大切な事です。ただ、利用者さんの個性を引き出したりニーズに応えるには、色々な活動やサービスマも必要だと思えます。利用者さんからは、仕事と創作活動を組み合わせて、「自分たちで作った物を売ってみたい」という意見が出ています。

「匠」は新たにスタートしてまだ間もないですが、今後利用者さんと一緒に考えながら、仕事と共に楽しい取り組みも考えていきたいと思えます。

ある利用者さんは、このような活動に対しての思いが大きく変わりました。創作活動を行った当初は、

(横田)

日常を離れて

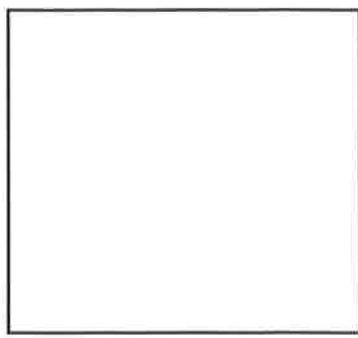
ケアホームでは、毎年ほとんどの利用者さんが旅行をします。職員やヘルパーと1対1で、もしくは3〜6名程度の少人数で、1〜2泊の旅行に出かけます。

この旅行は、7年前まではケアホームの利用者・職員全員で行く団体旅行でした。しかしそれでは利用者それぞれが希望する場所に行けなかったり、自分のペースで行動できない場面が多々出てきます。

せっかく年に一度自分でお金を出して旅行に行くのですから、もっと自由気ままな楽しい旅にしようという事で、団体での旅行ではなく個人の旅行に変更したので。

行き先は利用者さんに希望を出してもらい、職員と相談しながら決めていきます。行きたい場所や目的がハッキリしている人、一緒に行きたい人が決まっている人、おいしいものが食べられればどこでもいい人と

様々ですが、北は北海道から南は沖縄まで、毎年全国色々な場所に行っています。



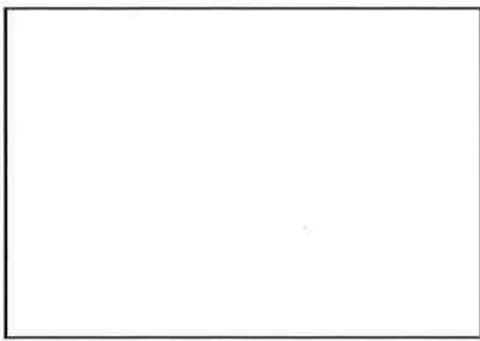
今年度、私は熱海への旅行に同行しました。「歩くのが多いのはしんどいわ」というメンバーもいたので、

現地では観光バスツアーを利用し、徒歩での移動をなるべく少なくしました。ツアーでは高台から熱海の街や海を見下ろしたり、梅園や巨大樹のある神社、箱根巡りなどを楽しみました。

ただ一つ、残念なことがあります。ケープルカーや湖畔の遊覧船で優雅に富士山を拝む予定でしたが、あいにくの強風によりことごとく欠航。「日頃の行いが悪い人は誰だ」などと不運の原因をなすりつけあう羽

目になり、富士山拝観に關しては、またいつかリベンジしたいところです。

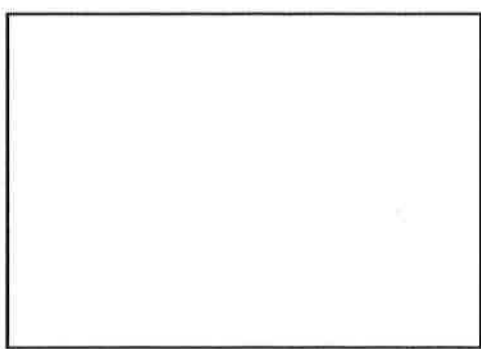
旅行は、日常の中ではあまり出会うことのない景色や食、非日常の時間を体験することができ、とても良い機会だと思います。利用者さん達がまだ知らない、見たことのない場所や経験をこれから味わってほしいと思っています。そのうち海外進出も：あるかもしれませんね。(野々村)



『余暇活動』のこれから
ユニオン利用者の週末の楽しみといえば、余暇活動が挙げられるのではないのでしょうか。

人気の企画は、味覚狩りやものづくり体験、工場見学などの自身の肌で感じることのできる企画。

最近、「体を動かす機会を」という職員の願いから始まった「ふうせんバレーボール」が余暇活動に加わるなど、活動の選択肢が徐々に増えてきました。ふうせんバレーは、平日の夜にも練習会を開催し、二回の大会に出場。大会で優勝したチームも出てきて、利用者間でも活動が定着しつつあります。



ふうせんバレーは、普段余暇活動に参加しない利用者も参加するなど、余暇の

世界が広がるきっかけになっているのではないかと思います。

現在、クラブ活動に移行し、試合で「優勝」を目指すチーム作りを進めています。「全国大会に出場する」という言葉も聞かれる中で、練習する姿は、余暇とはまた違った印象を受けます。余暇活動からクラブ活動へ移行することで、一つのことを継続する達成感も味わえると思います。もしかすると、ユニオンのチームが全国大会に出場、ということが今後あるかもしれないですね。

「余暇活動」は、利用者の世界を拡げるきっかけ作りのツールで、それを基に世界を拡げていくのが職員の役割だと考えます。

今後利用者さんのきっかけ作りのための企画を計画し、色々な経験を重ねてもらい、活動が人生を満喫してもらえらるための一助になればと思います。

(高橋)



りは、「障害福祉サービス」をうまく組み合わせた支援の方が、高齢期を迎える利用者にも「より充実した生活」を実現できるとの考えに至った。

一組織がすべてを行うのではなく、「一人ひとりの障害を持つ人が必要とするサービスを提供できるネットワークを地域に構築し、地域で支えるべき。」とのご批判があるのも承知の上で、私たちワークスユニオンが理念として掲げるのは、「日中支援」「生活支援」両面での「一生涯に亘るトータル支援」の提供。この「理念」を私たちは変えるつもりはさらさらない。

生涯に亘る支援を考える上でネックとなるのは、「制度」の問題。「障害福祉サービス」に加えて「老人福祉サービス」に踏み込むべきか、かなり悩んだ。

その結果、制約の多い「老人福祉サービス」の提供より、

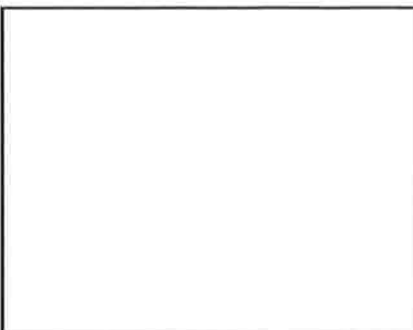
その歩みの一つとして、

「生活介護事業所 匠」を立ち上げ、就労継続支援B型事業所の「ワークス和」も、

人の日中活動として「働く事」は基本でもとても重要。しかし、「働く意欲」が衰えてきた高齢期を迎える利用者や「働く事」に向かい合えない、または、向かい合いたくない利用者の「楽しみ探し」も重要。

働くことで得られる「充実感」も大切にしながら、「楽しみ探し」とのバランスを取り、一人ひとりの利用者への「充実した生活」の実現に向けて、試行錯誤していききたい。

職員紹介



浦杉 満智子 (中央) 和

学生時代は手話の勉強をしたり、いくつかのボランティアをしたっていました。理科の実験などもこなすことができる彼女は多彩な才能の持ち主です。電車が大好きな彼女が今一番やりたいことは、『青春18きっぷ』で日本全国を旅すること。ユニオンに入って丸二年。「今までは利用者さんに育てられてきたので、これからは利用者さんと自分の世界を拡げたい」と晴れやかに話します。

川口 亮俊 (右) 和

一番の趣味は寝ること。大きな船のプラモデルを作

編集後記

ることにもはまっています。何事も突き詰める性格の彼は、真面目な一面があり洞察力も人一倍。

ユニオンに入って一年。ユニオンを探り、何ができたのかを自問自答する日々だったそうです。二年目は、どうすれば利用者さんが楽しく過ごせるのかを探っては感じることを繰り返して、支援の幅を拡げたいと語ってくれました。

黒井 ひとみ (左) 和

病院と老人ホームでの看護助手、また一般企業での営業経験を経て、昨年ユニオンにやって来ました。

社会人経験が豊かな落ち着いた女性という一面もあれば、ホームパーティーを開いて、夜釣りでの収穫をつまみに芋焼酎を飲む一面もあるようです。趣味は料理、つまみは手料理です。人に感謝、人が好きという暖かい人柄には、自然と人が集まるのでしょうか。

(黒川・原) と願っています。(S)